



# 里山広葉樹林活用・再生プロジェクト

## 近畿中国森林管理局



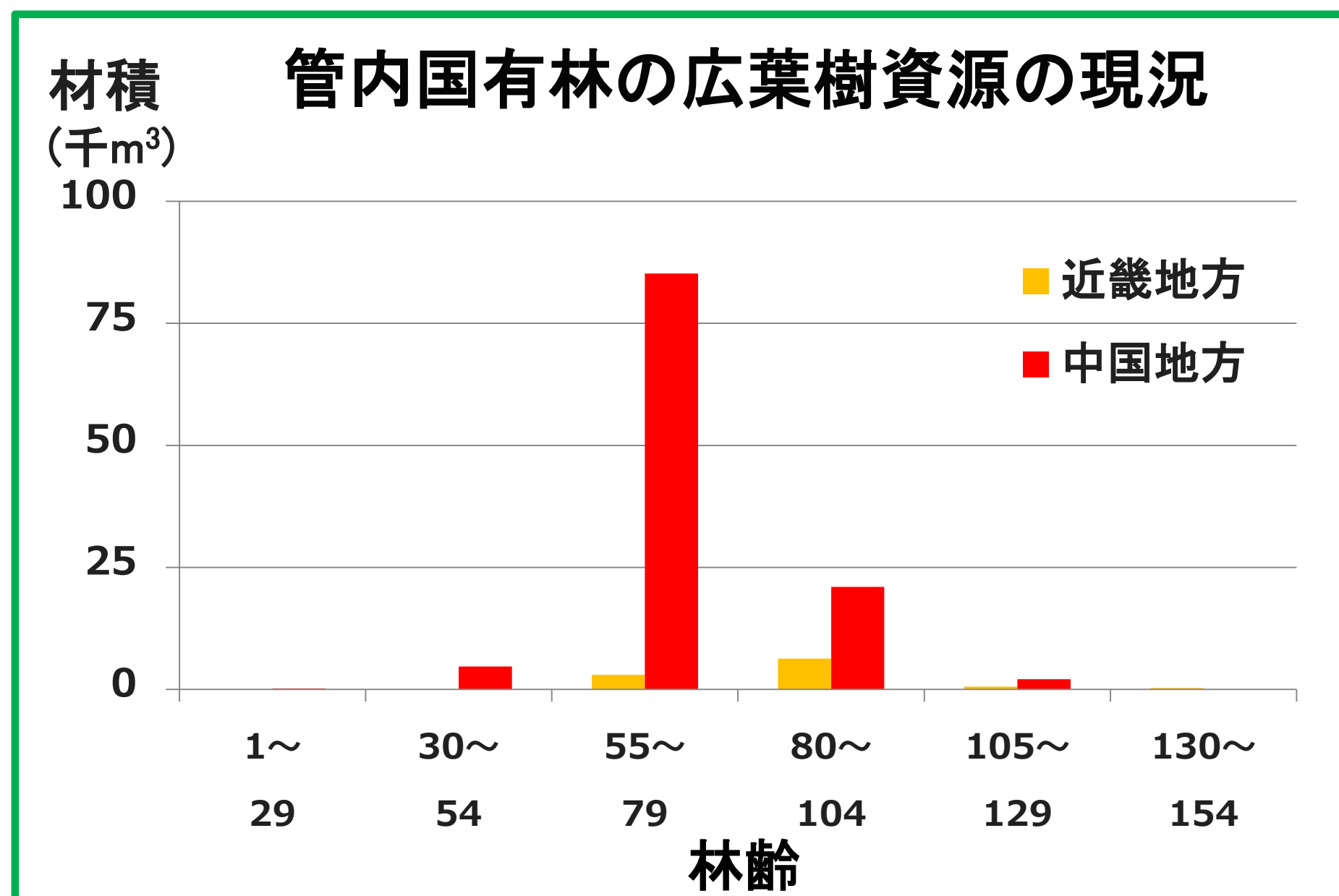
近畿中国森林管理局では、平成29年度より、岡山大学と連携し、里山広葉樹林活用・再生プロジェクトに取り組んでいます。

### 背景

かつては長くて20~30年間隔で伐採されていた旧薪炭林は、利用されなくなり、高林齢化しています。そのことが、大径木を好むカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害を増長しています。一方で、資源利用の観点では、薪やバイオマス発電用のチップといった燃料、しいたけ原木としての利用だけでなく、製材として利用できるサイズに育ってきているといえます。



里山広葉樹林(岡山県新見市)

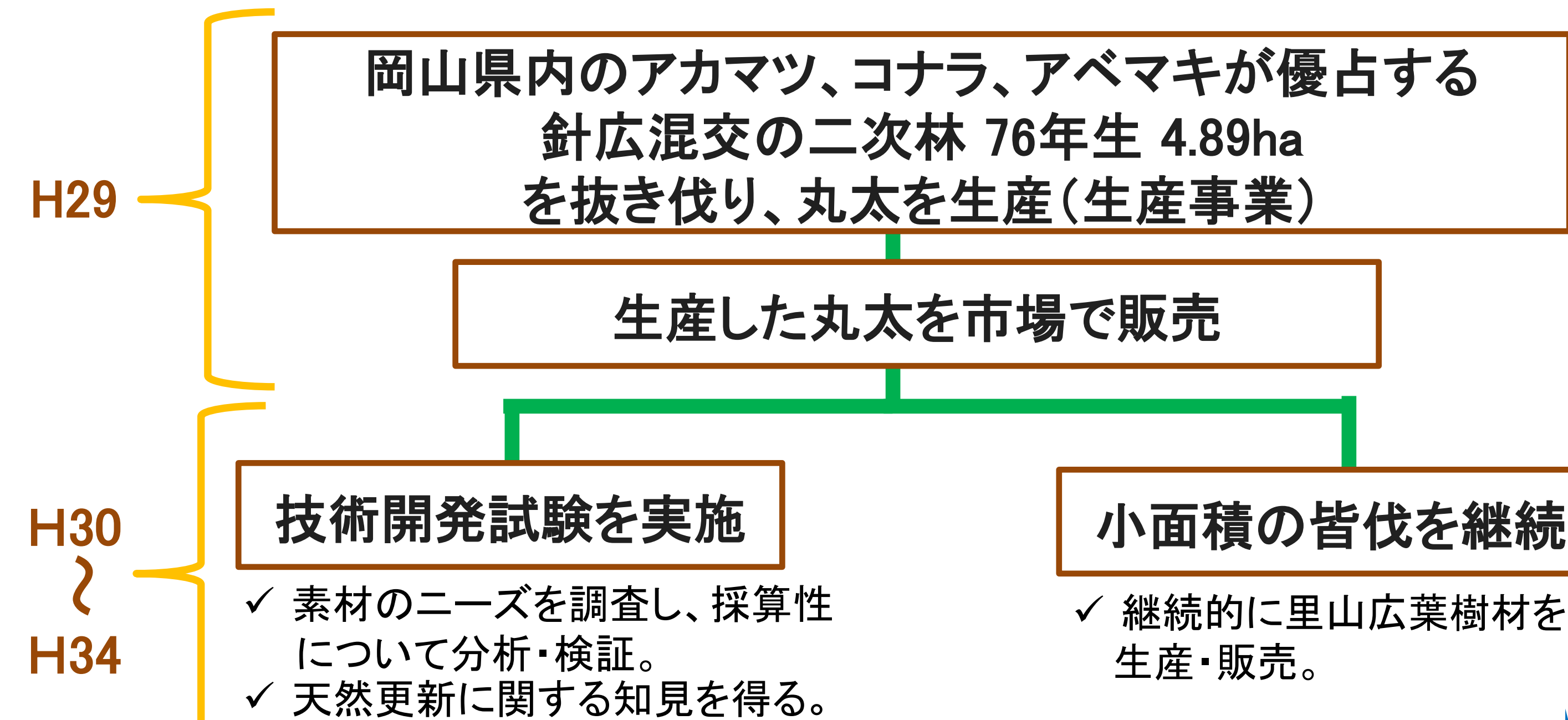


家具や建物の内装に用いられている広葉樹材は、これまで多く用いられてきた外国産広葉樹材が、生産国における違法伐採対策による伐採量の制限や資源的制約、価格高騰によって入手が困難な状況になってきており、代替する木材の確保が急務となっています。里山広葉樹資源の利用、特に付加価値の高い製材としての利用が進めば、これらの課題に効果的に対応できます。

### プロジェクトの目的など

＜大目標＞  
里山広葉樹林を有効に活用し、再生するモデルを構築する。

＜プロジェクトフロー＞



アウトプット

- 里山広葉樹材の製材利用のノウハウ
- 天然更新のノウハウ
- 市場へのインパクト

波及効果

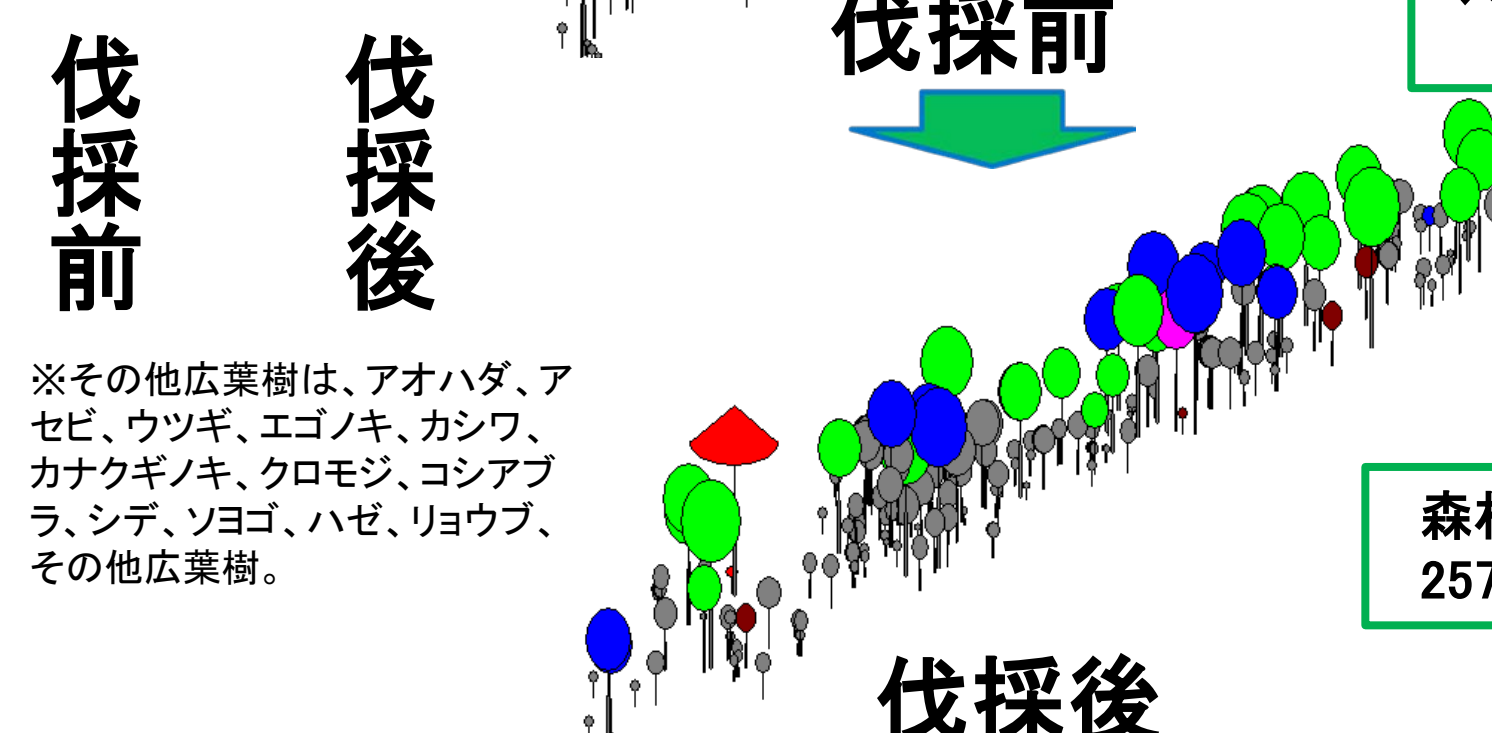
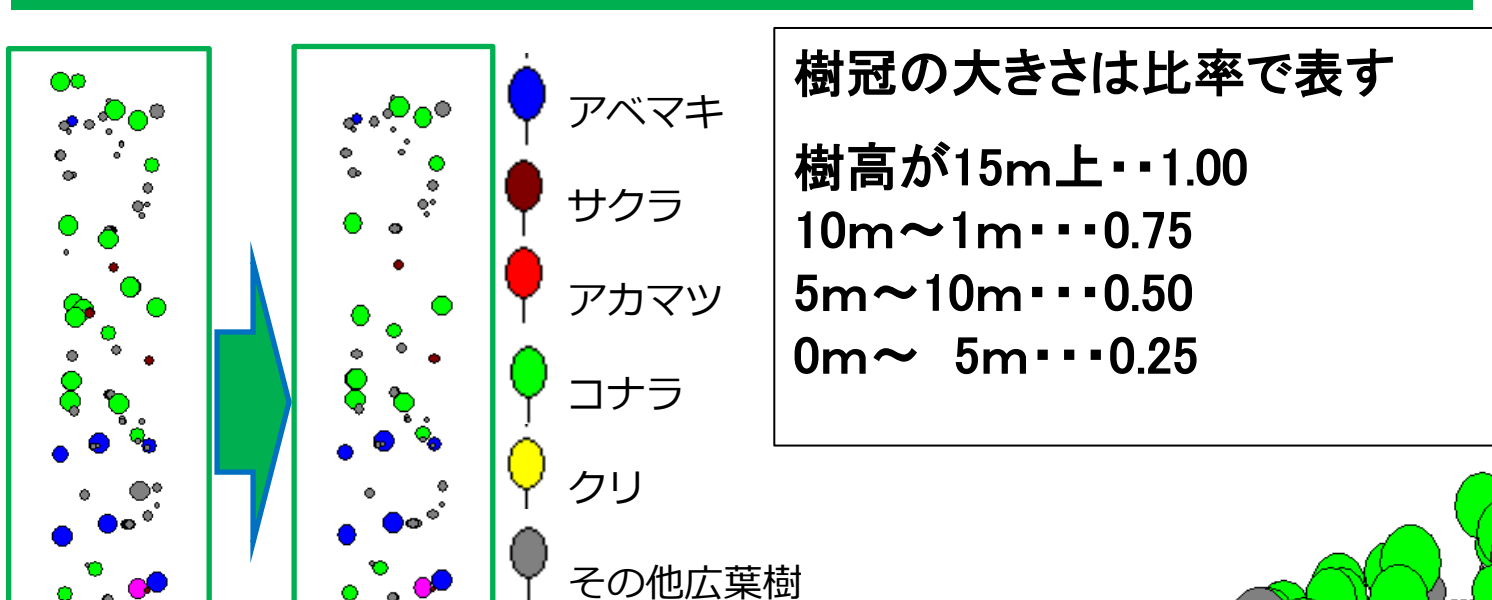


市場での丸太の販売

プロジェクトが呼び水になって、民有林からも広葉樹材が継続的に供給される。  
川中、川下が、広葉樹素材の持続的な供給ポテンシャルに合わせて、加工・流通のフローを形成し、持続的な広葉樹加工産業が形成される。

### 平成29年度の結果

#### ベルトランセクト法による林分調査



全天空写真

撮影日  
伐採前: H29年8月  
伐採後: H29年11月  
※ポールは北を示す。

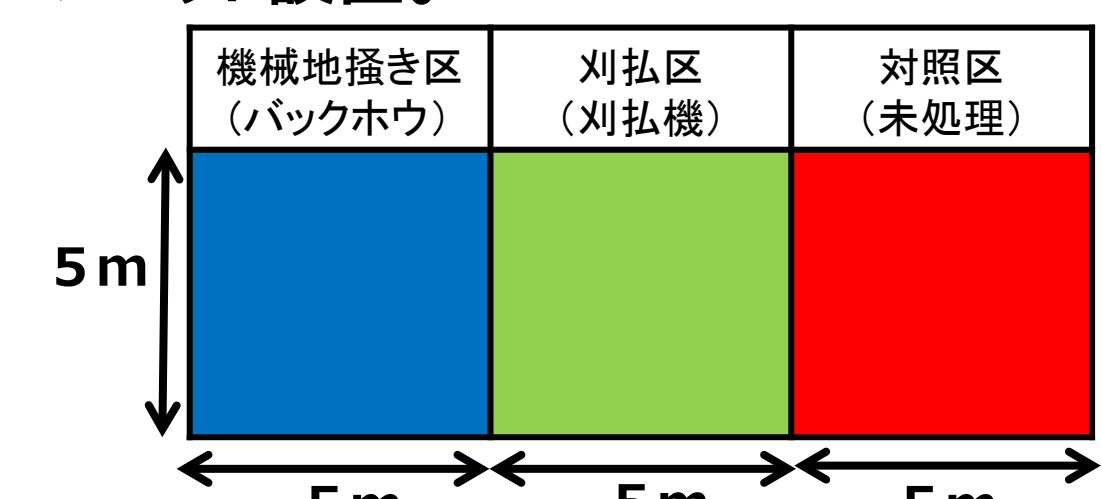
#### 生産事業と更新調査プロット設定

- ✓ アカマツは、原則として販売できるものは全て伐採。
- ✓ 広葉樹は、原則として胸高直径38cm以上を伐採。

作業内容	数量
伐木造材	646m <sup>3</sup>
集材・運材	455m <sup>3</sup>
トラック運搬	455m <sup>3</sup>
森林作業道作設	1,261m
機械地掻き	1.14ha

樹種名	丸太本数(本)	丸太材積(m <sup>3</sup> )
コナラ	873	147
アベマキ	440	59
クリ	85	12
サクラ	7	1
その他広葉樹	568	47
アカマツ	745	190
計	2,718	455

- 伐採本数: 1,102本  
端数処理のため、合計値が一致しない。
- ✓ 試験地の林床は、ササが繁茂しており、更新への影響が懸念される。
  - ✓ 地拵による更新状況の違いの検証ため、機械地掻き区、刈払区、対照区を各15プロット設置。



#### 市場での販売結果

- ✓ コナラは、末口径30cm以上であれば製材の高値が期待できる。
  - ✓ アベマキは、今回の需要は薪・製紙用チップ向けがメインだが、コナラを含めて薪用であれば、そこそこの高値(スギ中丸太価格と同等)が付いた。
  - ✓ 抜き伐りの作業効率が悪く、木の伐採や搬出の経費が高かったこともあり、事業収支(丸太生産・販売経費-丸太売上)は、赤字であった。
- 経費を削減し、売上単価や売上総額を伸ばすための工夫を検討していく。

